北海道栗山高等学校

令和５年度　学校関係者評価【評価シート】

|  |  |
| --- | --- |
| 評価実施日 | 令和６年　　月　　日 |
| 評価者氏名 |  |

学校教育目標

 「北海道教育の基本理念」の具現化を目指し、次代のふるさと建設の担い手として、その発展に寄与する人材を

　育成するため、次の目標を設ける。

 ○真理を求め、創造性豊かな人になろう。

　○視野を広め、みんなの幸せを考える人になろう。

　○心身を鍛え、自ら実践する人になろう。

※自己評価

A・・・十分達成できた　B・・・おおむね達成できた　C・・・やや不十分だった　D・・・かなり不十分だった

|  |
| --- |
| ※　学校関係者評価：「自己評価の適切さ」と「改善方策の適切さ」の欄に、以下のとおりA～Dで評価をしてください。また、ご意見の記入をお願いします。A・・・十分当てはまる　　　　B・・・おおむね当てはまるC・・・あまり当てはまらない　D・・・まったく当てはまらない職員自己評価の評価基準点　　Ａ＝３．０～４．０　Ｂ＝２．５～３．０　Ｃ＝１．０～２．５　 |

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 分野・領域 | 評　価　項　目 | 自己評価 | 学校関係者評価 |
| 達成状況 | 昨年度 | 改善の方策 | 自己評価の適切さ | 改善方策の適切さ |
| 学校運営 | 教育目標は、学校や生徒の実態、地域等の要望を踏まえている。 | **Ａ** | A | ・ＢＹＯＤの積極的な活用活用・学校設定科目「栗山と福祉」の更なる充　　　実 |  |  |
| 教育目標の達成に向けた校内体制は適切に組織されている。 | **Ｃ** | Ｂ | ・人事異動により多くの教職員が入れ替わり、引継ぎ等が適切に行われなかった。次年度以降、積極的な声かけから、適切な引継ぎを行う。 |  |  |
| 教職員間、教職員と管理職間の対話が推進され、協働意識が形成されている。 | **Ｃ** | A | ・教職員が大幅に入れ替わり、教職員間の対話が減少している。次年度以降、管理職からの声かけが重要である。 |  |  |
| 教職員の働き方改革に関わる取組について適切に推進している。 | **Ｂ** | A | ・働き方改革コアチームを中心にペーパーレスや会議の縮減など実施している。次年度以降も実践していく。 |  |  |
| 学校便りや学校ホームページ等により、学校に関する情報が発信されている。 | **Ｂ** | Ｂ | ・ホームページの管理等、校内体制を確認し、積極的な更新を実施する。 |  |  |
| 評価者の意見 |  |
| 教育課程・学習指導 | 教育課程は生徒の進路志望の実現に相応しいものである。 | **Ｂ** | Ｂ | ・栗山町の支援により、スタディサプリを導入し、生徒の進路実現に十分活用されている。 |  |  |
| 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの学習・指導方法の改善のための取組が推進されている。 | **Ｂ** | B | ・研修参加を呼びかけ、改善が図られている。今後も継続していく。 |  |  |
| 生徒の実態を踏まえた教材研究や授業方法の工夫・改善が図られている。 | **Ｂ** | Ａ | ・ＩＣＴ機器の活用について、次年度も継続的に研修を実施し、授業での活用に活かしていく。 |  |  |
| 基礎学力の定着や自主的に学習する態度の育成が図られている。 | **Ｂ** | B | ・次年度はスタディサプリの効果的な活用について、研修を深める。 |  |  |
| 評価者の意見 |  |
| 分野・領域 | 評　価　項　目 | 自己評価 | 学校関係者評価 |
| 達成状況 | 昨年度 | 改善の方策 | 自己評価の適切さ | 改善方策の適切さ |
| 進路指導 | 進路学習や講習・模試の設定等の取組は生徒の進路目標達成を十分支援するものある。 | **Ｂ** | B | ・進路指導について、担任からの働きかけが重要であり、進路指導指導部との連携を密にする。 |  |  |
| 勤労観や職業観等、生徒が主体的に進路選択の能力・態度の育成に向けた指導が行われている。 | **Ｂ** | B | ・進路ガイダンス等を通して生徒個々に寄り添った指導が行われている。次年度も継続していく。 |  |  |
| 保護者に対し、３年間を見通した進路指導計画を明確に説明している。 | **Ｂ** | B | ・進路指導部を中心に生徒だけでなく、保護者に向けて、情報発信を進めていく。 |  |  |
| 保護者に対し、生徒の進路決定など進路指導に関する情報提供は十分に行っている。 | **Ｂ** | B | ・保護者との連携は十分に取れている。今後も継続して、保護者との連携を密にしていく。 |  |  |
| 評価者の意見 |  |
| 生徒指導 | 校内組織の連携が図られ、学校全体で生徒指導に取り組むことができている。 | **Ｃ** | C | ・今年度の反省を活かし、生徒指導部を中心に生徒指導について統一した見解を示し、学校全体で取り組んでいく。 |  |  |
| 保護者や地域社会、関係機関等との連携・協力が図られている。 | **Ｂ** | B | ・今後も継続して、保護者や地域、関係機関との連携を図っていく。 |  |  |
| 規範意識の向上に努め、社会の一員としての自覚を促す指導が実施されている。 | **Ｂ** | B | ・クラスでの全体指導、教育相談週間での個別指導等、継続して実施していく。 |  |  |
| 学校行事や生徒会・ＨＲ活動等を通して生徒の豊かな心の育成が図られている。 | **Ａ** | A | ・生徒会を中心に行事等において、生徒達が生き生きと活動している。今後も指導を継続していく。 |  |  |
| 教育相談体制を整備し、相談活動が積極的に行われている。 | **Ａ** | A | ・教育相談週間だけでなく、普段から相談しやすい雰囲気を作っていく。 |  |  |
| いじめの未然防止や発生時の対応は適切に行われている。 | **Ｂ** | A | ・校内の様子を感じ取るよう生徒観察を十分に行い、いじめ防止対策委員会との連携を図る。 |  |  |
| 評価者の意見 |  |
| 健康・安全指導 | 家庭や地域の保健・医療機関等との連携が行われている。 | **Ｂ** | A | ・これまでもしっかりと連携しているが、今後も継続して漏れがないように連携していく。 |  |  |
| 疾病予防等、生徒の自己健康管理能力向上のための取組がされている。 | **Ｂ** | Ａ | ・保健だよりによる周知がなされており、今後も継続していく。 |  |  |
| 校内外の事件・事故や災害等に対する危機管理体制は適切に整備されている。 | **Ｂ** | B | ・危機管理マニュアルの見直しを図り、危機管理態勢について職員への周知を徹底する。 |  |  |
| 教職員・生徒の安全対応能力向上を図る取組がされている。 | **Ｂ** | B | ・避難訓練等、次年度も継続して実施していく。 |  |  |
| 校舎・校地の環境は適切に維持されている。 | **Ｂ** | A | ・今後も継続していく。 |  |  |
| 評価者の意見 |  |
| 特別支援教育 | 特別支援教育委員会が機能し、各学年等との連携が図られている。 | **Ａ** | A | ・特別支援委員会が機能しており、職員の間で情報共有がなされている。今後も継続していく。 |  |  |
| 生徒の実態把握が行われ、支援を必要とする生徒に、具体的な支援活動がされている。 | **Ａ** | A | ・生徒の実態を把握し、全教職員で情報共有がなされており、支援活動に繋がっている。今後も継続していく。 |  |  |
| 評価者の意見 |  |